

がん情報サロンボード

2016/03/07

がん情報サロン 富田明人

子どもたち 一人ひとりの笑顔のために 小児がんの課題

小児がんの講演会が3月6日（日）に松江市のホテル宍道湖で開催された。当日は生憎の雨であったが、県内各地から100名余りが集まった。

第一部では島根大学医学部附属病院 小児科医 竹谷健 氏の「小児がんと正しく向き合おう」～小児がんの現状と島根県内での取組～について

小児がんについて正しい認識をしていただき小児がんの子どもたち・家族が笑顔で過ごせるためには何をすれば良いかを考えるきっかけとなればと話した。

小児がんは治るようになってきた。グループ研究による臨床試験、遺伝子工学の進歩により遺伝子による診断、集学的治療、層別化療法等の治療の進歩や支持療法の進歩により治癒率は向上してきた。

小児がんの問題点としては、患者数が少ない。地域の医療機関が少ない。山陰では島根大学、松江赤十字病院、鳥取大学で受診できる。小児がんは血液、リンパ、中枢神経系の発症が多く抗がん剤や手術、放射線などの治療が有効だが、強い副作用があり、がんの治療が終わった後に発生する生活と健康への悪影響、晩期障害の課題である。

成長期に発症する小児がんは様々の器官に障害を及ぼす。学習障害、自立障害、就職問題等生活と健康への悪影響等医学的でなく社会的心理的問題も多い。

医療機関の整備も急務である。現在小児がん拠点病院は全国で15病院。中国地区では広島大学病院が拠点病院に認定されている。小児がん専門医の育成や病院間のネットワークの整備、患者・家族の支援に多業種との連携が必要である。

小児がんの課題は、患者、家族だけでなくすべての人が各分野で協力して一人でも多くの小児がん患者を助ける体制づくりが望まれる。 (富田)

